

概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 保健体育部会

テーマ 『生徒が主体的に取り組み、観る・気付く・伝える力を育む授業作り』

～柔道の教え合いを通して～』

提案概要

柔道は、中学校で初めて経験する生徒が多い。柔道に対して『怖い・痛そう』や『どうやっていいかわからない』などのマイナスイメージが先行していることも明らかになり、そのイメージを払拭することが重要な課題となった。上級生になっても少なからずマイナスイメージをもっている生徒がいたことから、より安全面に関する内容を定着させる必要性を感じた。また、受け身・固め技などの基礎的な技能を習得しているだけでは、柔道というスポーツの特性を十分に理解し、安全に楽しむことはできないと感じた。

さらに、授業を実施した3学年は、男女間のコミュニケーションが希薄であり、言語活動を通して活発なコミュニケーションを取ることができるような授業展開をしていく必要性を感じた。

そこで、『安全面』を考えて学習活動を行うことを最重点指導項目に掲げ、学習してきた技能の安全な行い方への理解を深められるように、男女混合のグループ学習を行った。各グループに発表させることで、新たな気付きを生み出し、技能の安全な行い方に対するより一層の理解を深めることができた。

質疑概要

特になし。

研究協議概要

提案後、協議の柱を2つ設定し、参加者を8つのグループに分けてグループ協議を行った。その後、グループごとに協議内容を発表した。

協議①「武道の授業を行う中で指導計画や指導法、安全面に関する工夫」

- ・ 場の設定（畳の敷き方、マットの活用など）を工夫する。
- ・ 準備運動だけでなく、補助運動やアイスブレイキング、体づくり運動などを取り入れる。
- ・ 指導者の知識や指導力を向上させる。
- ・ スモールステップでの指導（低→高、遅→早）が重要である。
- ・ 技能の定着が大切だが、武道特有の精神をも育む。

どのグループも、段階的指導の重要性や場の設定が大切であるということで、主に安全面に関する内容で協議が進められていた。

協議②「言語活動を活用しながら運動量を確保する授業の工夫」

- ・ 言語活動の重要性や必要性を伝えなければならない。
- ・ 言語活動をすることで楽しいなどの成功体験を感じさせることが重要である。
- ・ 言葉だけではなく、文字による言語活動の充実を図ることで運動量の確保ができる。
- ・ 課題を明確化し、役割分担をはっきりさせることでより充実した活動になる。
- ・ 待っている時間を有効に活用する。

非常に難しい課題で、どのグループも各地区・各学校の取り組んでいることの情報共有を中心に話が進んでいた。

まとめ概要

- ・ 日ごろ取り組んでいる授業を発表することの難しさを感じた。短い準備期間でよくまとまった提案だった。
- ・ 安全面を主眼に置いて3年間を見通した取組がはっきりと示されていたと感じた。
- ・ 男女共修で、言語活動を取り入れた素晴らしい取組であった。

- 言語活動を多く取り入れていくと、活動時間の確保が今後の課題になる。
- 柔道を経験した先輩の教員がいない中で、自分自身が経験のない単元（柔道）を教える難しさを克服していくためには、今回のような提案と協議を繰り返し、情報を共有することが大切である。
- 言語活動の取り入れ方は、他教科の教員の取組なども参考にしていくとよいと感じた。ディスカッションしなくても、文字にして表現すると運動量を確保しながらのよりよい言語活動になるのではないかと感じた。
- 安全面を確保するには、場の工夫や段階的な指導、取り扱う技能を限定するなどの工夫が必要である。